

# 制活はまる!!



さる6月18日の土曜日、ついに制活編集支援室の参加者募集の説明会がせんだいメディアテーク(以下smt)1Fの考えるテーブル特設会場にて開催された。約30名の参加者が集まる中、茨城県水戸市からやって来た美術家の中崎透さん(34)は、「制活」とはいわゆる制作活動の略称であり、この企画は日常の中の何気ない制作活動や編集行為に

眼を向け、みんなで話し、実際に手を動かしながら参加者の説明会がせんだいメディアテーク(以下smt)1Fの考えるテーブル特設会場にて開催された。約30名の参加者が集まる中、茨城県水戸市からやって来た美術家の中崎透さん(34)は、「制活」とはいわゆる制作活動の略称であり、この企画は日常の中の何気ない制作活動や編集行為に

で、せんだいメディアテーク企画・活動支援室 office@smt.city.sendai.jp

交流会は中華屋!

説明会後は参加者とsmtスタッフを交え、数名にて近所の中華屋での交流会も開催された。自己紹介を手始めに脱線ばかりの欲望とネタだしの入り乱れる愉快な宴となる(詳しくは以下アドレスまで)



▲三次会はチョコフォンデュ

くは裏面の妄想企画室24時にて。話の勢いで翌日は参加者齊藤氏にちよつとした仙台ツアールに連れ出してもうこととなる。今回の企画では中崎さんは仙台滞在三回目にして、行動範囲は駅、メディアテーク、国分町の飲み屋、以上。といつたかんじだっただけに、おおいにはしゃいでいた。



▲中崎透氏(34)

一体これはなにをするものなのか?説明会に集まった30名ほどの人は、最初は半信半疑の面持ちだった。しかし、これまでの活動紹介を交えながら進められる中崎氏のテンポよい話ぶりに、徐々に関心をかきたてられていったようだ。中崎氏の突然の振りに慌てながらも自己紹介するsmtスタッフのテンパった様子が逆に安心感を与えたのかもしれない。さて、生活と制作、制作とは表現を意味するが、それは本来一つのものであって、ちよつとした編集行為が加わることで、生活と制作が一つに見えてくる。と、中崎氏は言う。そうです、制活編集支援室は、中崎氏が提案するラジオと新聞制作の枠組をベースとして、クリエイティブな生活を推進していくプログラムなのです。思い立ったが吉日、あなたの参加をお待ちしています。(清水建人/smt学芸員)

せいにかつぶん  
制活新聞

第0号

平成23年6月30日(木)

発行 制活編集支援室  
http://www.smt.jp/thinkingtable/

制活はもう始まっている。そう思われる出来事がささやかに起こった。6月29日、某学校にチラシ配布のために訪れる。説明会は終了したが、制活編集支援室は引き続き参加者の募集を受け付けているのだ。休み時間中の学生の教室などをちよつとこまめに周り、学食でアイスを食べながら一通り懐かしのキャンパスライフを満喫し、公用車に乗り込み、さて帰ろうか、というそのときに事件は起こった。S学芸員(34)の運転する車が駐車場の花壇の緑石を引っかけ、少しズラしてしまっただけ。車自体は無傷なもの、二つの緑石

もついつの制活のはじまり

が少々転がり土がこぼれている。素人が見たら、地震でこんなところまで崩れたのか、と勘違いしてもおかしくない状況であった。ちよつとそわそわしながら慌てて直すS学芸員、居合わせてしまっただけで手伝ってくれたM先生、スタッフのTくん、ゲラゲラ笑いながら写真を撮る僕、中崎。埋まらない隙間に雑草を詰めてみたりしつつ、元の位置からは3cmほど出ばった復旧となったが、最中の一工夫にささやかな制活の始まりを感じる。穏やかな夏の日であった。ミミズさん、ごめんね。

写真スレた緑石。左上にはS学芸員の足が。

「ただただ思ふ」

中崎さんはこの企画を通して、仙台を知ろうとしてくれています。そして、仙台に本格的な仕掛けをして帰ろうと思っているようです。こんなことは、滅多にないことではありませんが、果たしてどんな仕掛けが出来るのか。期間は3月まで。その仕掛け作りと一緒にやってみませんか?(文責た/説明会&交流会の参加者より寄稿)

こんにちは、中崎です。みなさん、うっとりしてますか?もうすつかり夏ですね。今回のこの企画のためのリサーチで最初に仙台入りしたのはGWでした。早いものでそれから仙台を訪れるのは4回目、徐々にsmtスタッフや制活編集支援室の参加者の顔がちらほら見えてきた今日この頃です。

制活編集支援室は、「考えるテーブル」という企画の一環として位置づけられています。そして「考えるテーブル」は3月11日の震災を受けて、せんだいメディアテークの1Fのオープンスクエアを会場に、人が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく場作りといったことを目指しています。

展示会を企画するワークショップ

参加者募集中!!

コールアンドレスポンス

http://www.smt.jp/callresponce/

考えるテーブル

人が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく場

http://www.smt.jp/thinkingtable/

3がつ11にちをわすれないためにセンター

発信はさまざまな支援活動を応援し、記録は未来への財産となるように。

開設

メディアテーク2F

http://recorder311.smt.jp/ @recorder311

せんだいメディアテーク機関誌

ミルフイユ 03

土に着く

3.11以降の私たちが新たな意思を見出すために

2011年6月より、全国書店で発売!!!

発行:せんだいメディアテーク / 発売:赤々舎  
価格:1,575円(税込) / ISBN 978-4-903545-69-1

第0号

平成23年6月30日(木)

発行 制活編集支援室  
http://www.smt.jp/thinkingtable/

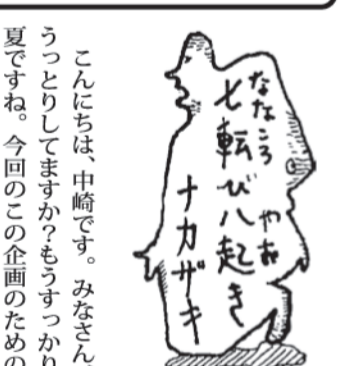
かあんまり分けずに参加できるように、土台を作っているなあ。これは、参加した人は面白いだろうなあ。などと思う。

●今回は、新聞とラジオといっているらしいが、それだけにどまらなれないかもしれない。花火を見たり、ヘチマ植えたり、いろんな人の妄想を実現したいらしい。これはもしかしたら面白いんじゃないか!

●ところで、中崎さんは、説明会のときに、できあがるものは「からっぽ」だと説明していた。からっぽのものを作ってどうするの?と、正直なところ筆者は思う。が、どうも中崎さんの作品のメインポイントはそこではないらしい。そのからっぽな作品が出来上がるまでに、みんなで協力してわいわい言いながら、新聞やラジオを作ることが面白いらしい。その過程がどうやら、メインポイントらしい。つまりは、誰が参加しても良く、誰が何を企画しても、中崎さんがうまくまとめるよというところらしい。どうやらその腕は確かだよ。

●一緒にいろいろ作り上げながら、打ち上げビールを飲むのが楽しい!という人、わたしの妄想を現実にしてほしい!という人、なんだかわからないけど、毎日つまらないな、という人、小学生、大人、高校生。そんな人たちがこの企画に参加すると面白いんじゃないかな。

●中崎さんはこの企画を通して、仙台を知ろうとしてくれています。そして、仙台に本格的な仕掛けをして帰ろうと思っているようです。こんなことは、滅多にないことではありませんが、果たしてどんな仕掛けが出来るのか。期間は3月まで。その仕掛け作りと一緒にやってみませんか?(文責た/説明会&交流会の参加者より寄稿)



# わすれん、公式に認める

## 非公式マスコミキャラクター

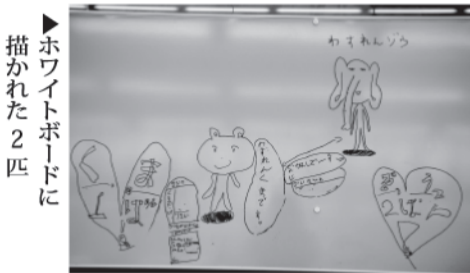
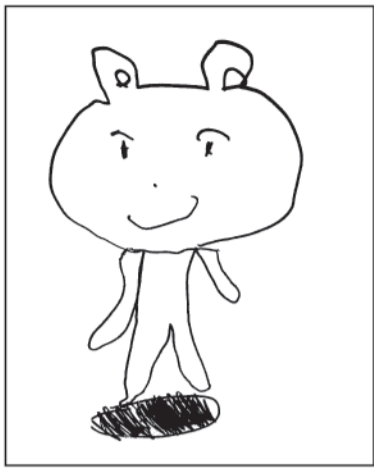
せんだいメディアアテックの二階に開設された「3がつ11にちをわすれないためにセンター(通称・わすれん)」(http://reorder311.smt.jp/aoutus)は「発信はさまざま支援活動を応援し、記録は未来への財産となるように。」を合言葉に、市民専門家、スタッフが協働して東日本大震災からの復興・復旧のプロセスを記録保存し、独自に発信するためのセンターとして動き出しました。

わすれんでは、この度公

式に「わすれんゾウ」を非公式マスコミキャラクターと認めることになりました。ここ数年全国的に流行しているいわゆるゆるキャラの一種で、センターの略称である「わすれん」と動物の「象」を合わせた「象」という強い意志を忘れないための「忘れんぞう」という強い意志を上手に掛け合わせたキャラクターに仕上がっています。これから多くの市民に親しまれるであろう「わすれん」「わすれんゾウ」がより多くの市民とのゆるやかな架け



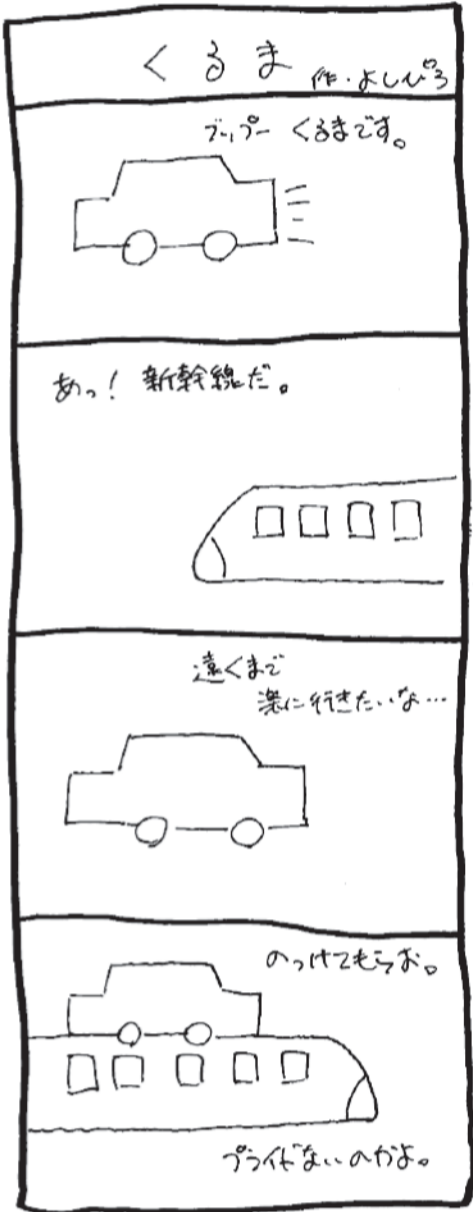
▼わすれんゾウ  
▼わすれんくま



▶ホワイトボードに描かれた2匹

### 誕生

わすれんゾウが非公式マスコミキャラクターとして認められた数日後、わすれんに設置しているホワイトボードにて「わすれんくま」が発見された。現場を目撃したK氏(30)によると、わすれんを訪れた小学生により描かれたようである。描かれたホワイトボードによると2匹は仲良しだそう。ゾウは2番、くまは1番とのこと。わすれんゾウとはまた違った愛くるしい表情をしている。



### 妄想企画室24時

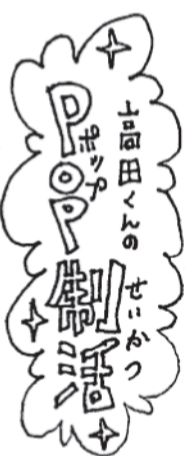
#### 6月18日の19時より

中崎と説明参加者数名は、smtスタッフと仙台市内の某中華料理屋で交流会を兼ねた今後のネタだしをおこなった。ネタだしのネタなんて、このティッシュのようなものだ。ふーん鼻をかみなから言う中崎氏の半ば強引な誘導によって、参加者の奇天烈な欲望があふれ出した。そのいくつかを紹介しよう。

### smt屋上庭園妄想、サングラスで宅録ノイズ、天井ぶらさがり新聞か

参加者のK女史の前髪が揃っていたことからサングラスをしてほぼ無言のまま宅録されたノイズミュージックなどを再生し配信するというラジオのコーナーも誕生した。また、奇想天外という意味では、参加者のよしひろ氏がぶち上げた、即興シルクドソレイユ新聞も捨てがたい。これは天井からぶらさがりながら新聞を書くという、まさに頭に血が上った企画であった。

花火の音だけで中継するラジオを決行する(笑)こととなった。また、それについて、説明会の参加者S氏の長年のsmt屋上庭園妄想が展開され、ブドウやヘチマの栽培が夢見られたのである。さらには、完全に見た目の判断ではあるが、参加者のK女史の前髪が揃っていたことからサングラスをしてほぼ無言のまま宅録されたノイズミュージックなどを再生し配信するというラジオのコーナーも誕生した。また、奇想天外という意味では、参加者のよしひろ氏がぶち上げた、即興シルクドソレイユ新聞も捨てがたい。これは天井からぶらさがりながら新聞を書くという、まさに頭に血が上った企画であった。



震災でお地蔵様の気持ちを知った。3月11日後しばらく、多くの人たちを悩ませたのが洗髪のことだった。水で洗うにはまだ寒く、街中で「シャンプー〇〇」といった張り紙を見かけるようになる。私も試してみた。初めて利用するその散髪屋が居るというビルはオール電化で、お湯が豊富に使えた。久々の洗髪。プラス人に洗ってもらおう心地よさ。至福でありました。それから数日、また頭がもやもやしてきた。ふと、日頃利用している散髪屋はどうなっているのか、気になった。あわよくば散髪もされたらいい!電話してみると営業しているとのこと。ちょっと伸びすぎた髪を切ってもらい、いざ洗髪タイム。だけど様子が変。お湯に勢いが足りない。なるほど、沸かしたお湯をベットのボウルに詰め、手動で垂らしながら洗髪している。しかし、あんなに心地がよい。ちよとちよと自分の顔面から垂れるお湯。何かに似ている。そう、だ頭から水をかけられるお地蔵様。あるいは墓石だ。「おじいちゃん、暑かったでしょう。なんつって墓石に水を優しくかけたものです。お地蔵様、おじい様、今ならわかります。水(湯)を頭から優しくかけられるその心地よさ。」



小学校の低学年くらいの年頃だったころか、大河ドラマで「独眼竜政宗」が放映されていた。たぶん伊達政宗を若かりし渡辺謙が演じていて、わりとよく見ていた記憶がある。とはいっても内容はほとんど憶えてあるわけもなく、ガキの頃の名前が梵丸だったというのくらいが頭の片隅に残っている。そんなことが僕と伊達政宗のファーストコンタクトなわけだけど、いよいよもって青葉城にて再会を果たす日がやってきた。こ

この大観音をモチーフにした作品があるらしいと噂を耳にして読んでみた。「ガンジョリ」という短編集の中にある「観音哀歌(かんのおんエレジー)」。ものすごく省略した話の流れとしては、突如として大観音が動きだし、自衛隊の攻撃とも受けながら、六本木ヒルズに辿り着く、といったなかなかめっちゃくちゃな話である。安直な比較ではあるが、最終的に花のお江戸のど真ん中にそびえ立った大観音の勝利、ということだろうか?

### 最終回

大人になっても冒険したい、風呂は自分で作りたい、そんな制活魂に火をつけ、東日本温泉ランキンダ【野湯】編、第1位に輝いたのは「秋田県・川原毛大湯滝」です。川や沼そのものが温泉である「野湯」、川原毛大湯滝は上流の湧出地から流れ下る高さ20mの滝と、そこから続く長い長い川、地平線の彼方まで温泉であり、滝壺が浴槽に、また、自分の好きな場所に自分仕様のマイお風呂をつくる事ができます。



「制活」の文字が辞書に載るその日まで。

掘り湯船をつくるのがお決まりですが、ここではそんな手間は無し。できるだけ車で移動したい軟弱派でもオーケーです。川原毛地獄の無数の噴気孔から立ち上る高温の硫化水素ガスは死の危険ととも腹に、その強烈なゆで卵臭が気分を高揚させ、地獄谷の先にある滝壺の幻覚をもたらします。川原毛地獄の隣、つげ義春の世界が現前したかのような泥湯温泉奥山旅館も、一見の価値あり。

と、いうわけで制活新聞記念すべき第0号です。まずは中崎氏やsmtスタッフ、そして一部の参加者によってテスト号として制作し、無事発行に漕ぎつけることが出来ました。拍手そして握手。編集長ついで、イスの上にデデンと座りながら、皆が持つてくるネタにダメだしをしたり、取材行つて来い!と指示を出し、なおかつ1面のトップ記事を独断で決定できた、という権力を保持しているのかと思いきや、パソコンに向かいながらほとんど使ったことのないIndesignと格闘しているのが実状です。説明会が終わった後でも、一体何をやるのか分からない、活動内容を分り易く伝えて欲しいなどの声が各方面からあがっている中、中崎氏本人も「僕も良くわからない」と言い参加者を油断させていますが、そのメガネの奥には、綿密に練られた壮大な計画がなされているに違いありません。「制活」の文字が辞書に載るその日まで。

一度観光で訪れたことがあるような気がするんだけど、さすがに20年くらいたつてるのでこれまたほとんど記憶がない。6月19日の日曜日のことである。説明会&交流会の翌日、このところ何度か仙台に来ていない、ほとんど市内をまわっていないという状態で、ちよとちよ仕事や休みな某斎藤氏にいろいろ連れ回してもらおう。典型的な観光地でも行ってみようというところでとりあえず青葉城で伊達政宗に会いに来たわけだが、なかなかいい眺めだったり、武将コス

プレをした兄ちゃんがうろろろしたりでとても楽しんだ。次の典型的な観光地は、とおぼろげながら計画を立てたのだが、おもむろに視界の中に小高い山の上に立つ大きな観音像が入ってきて、もろもろの計画は吹っ飛び、とあえずアレに行こう!ということになった。地方の街並に突如として現れる観音像、デ・ジャブというものだろうか、これまで何度かこういう風景を見たことがある。ときには淡路島で、ときには北海道で、また再会してしまった。その度にどういう心意気で、経緯でこれが出来てしまったのかといったことに思いを巡らすが決まっていたことには辿り着かない。印象論ではあるんだけど、感覚として7割廃墟ってかんじ。営業はしてはいるはずなんだけど、どうしようもなく廃墟感が漂っている。絶妙な微妙さが最高で、京都の由緒ある古寺を訪れるようなテンションになつてしまった。ありがと大観音、またあなたに会いに来ます。後日談なんです、宮城在住の漫画家、いがらしみきおさんが短編集の中



### 制活 とは...

市民参加型の長期ワークショッププログラムです。講師となるゲストアーティストは水戸を拠点として活動している中崎さん。日常を素材にして、ちょっと違った視点が見えてくる作品を作るアーティストです。私たちの日常の中には様々な制作活動や編集行為が潜んでいます。ちょっとした本棚や食器棚の並べ方だったり、心地よい椅子の高さの選び方、有意義な一日を過ごすためのスケジュール作りだったり。そんななんでもないことを、一緒に話して、集めて、歩いて、手を動かしてみたりしませんか?月1ペースでのラジオ放送と、手作りの新聞発行を目標に年間を通した活動を行います。

### 今後の予定

- ◎7月7-8日 / 1号のミーティング
- ◎8月1-3日 / 1号の制作・発行 2号のミーティング
- ★ラジオ放送 第1回
  - 8月2日 第1部 13:00-15:00 (ゲスト:毛原大樹)
  - 第2部 18:00-19:00
- ◎8月5日 / 七夕花火の配信
- ★ラジオ放送! (七夕特別企画)
  - 8月5日 19:00-19:45 (予定)
- ◎8月29-31日 / 2号の制作・発行

